



新谷 健司 氏



連合駿台会報

No.341 平成30年9月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052 千代田区神田小川町三十一-二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三) 三二九六一四七四七
 印刷 有限会社 美 創

連合駿台会七月例会

「最新ビジネスモデル

解説セミナー」

(株)経営参謀代表取締役社長 新谷健司氏

連合駿台会平成三十年七月の例会を、七月十一日(水)十七時四十五分より、明治大学「紫紺館」三階会議室で、新谷健司氏をゲストスピーカーとして開催しました。

開会に先立ち、田村駿会長から次のような挨拶がありました(挨拶主旨)。

五月の総会において新しい役員体制をご承認いただいた。一期二年、誠心誠意努力をしていく所存なので、変わらずのご支援、ご協力を賜りたい。

まず豪雨による平成最悪の被害に遭われた西日本地区の方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申しあげる。まさに想定外の異常気象

としか言いようがない。気象庁からは大雨特別警報が発令され、数十年に一度の未曾有の豪雨、想像を絶する河川の氾濫や土砂崩れにより、多くの死者や行方不明者を出した。とにかく一日も早く従来の生活に戻れるよう、お祈りしたい。一方、関東甲信越では六月に梅雨入りし、史上最短で梅雨明けとなった。六月中の梅雨明け宣言は、観測史上初だそうだが、常識的には七月二十日前後と思っていたが、最近では従来の正常が異常になり、逆に異常が正常になってきているのかもしれない。

さて深夜早朝、日本中が盛り上がったサッカーワールドカップ・ロシア大会……、この先は後ほど柳谷理事長からお話いただき、私はラグビー部の嬉しいニュースをお伝えしたいと思う。ご存知のように関東大学ラグビー春季大会で、わが明治大学は初戦で最強の帝京大学を17-14で破ると、勢いそのままに東海大学、流通経済大学、慶應義塾大学を撃破、最後は大東文化大学に12トライ、80-14で大勝した。春季大会での優勝は初めてで、それも全勝優勝である。帝京大学を負かしたことで、今後の対抗戦グループでの活躍が大いに期待される。連合駿台会でもラグビー観戦の計画があるようなので、どうぞ多くの方に応援に行っていただきたいと思う。

当日の講演の要旨は以下の通りです。

*

今回は、すでに実現している事例を中心に、最新のビジネスモデルをご紹介します。ひとつでも皆様のビジネスのヒントになれば幸いです。

1つ目のテーマは人工知能。早速実例をご紹介します。

高度な知識作業の代替

- ・ **Aiアナリスト**…Webコンサルティング業務の一部を人工知能が行う
- ・ **ゴールドマン・サックス**…トレーディング業務を自動化し、本社に600名在籍していたトレーダーが2名に
- ・ **中古自動車の仕入れ値の算定**…相場との誤差を専門家の5%から0.5%に改善

高度な画像映像認識

- ・ **胃がんの検出**…内視鏡画像を人工知能が解析し、熟練の内視鏡医と同レベルで胃がんを検出
- ・ **中国の顔認証システム**…河南省の駅を警備する警察官がカメラ付きサンングラスを装着。実際に犯罪者を逮捕

未知なる相関の発見

- ・ **ホームセンターの売上アップ**…従業員と顧客の動きを分析し、従業員が特定の場所にいることで顧客単価が上昇することを発見。実際に実証実験した所、顧客単価が15%上昇

以上のように、すでに人工知能を活用したビジネスが多数生まれています。自社の業界・業務に適用可能か、検討されてはいかがでしょうか。

続いては、シェアリングエコノミー。個人の資産を共有する流れが加速しています。早速事例をご紹介します。

- ・ **Airbnb (自宅の共有)**…一言で言うと民泊サービス。個人の自宅を旅館として提供できるサービス。創業10年で、時価総額は3兆円を超える
- ・ **Uber (自動車の共有)**…一言で言うと白タクサービス。個人の乗用車をタクシーとして提供できる。創業9年で、時価総額は6兆円を超える
- ・ **PiggyBee (移動の共有)**…一言で言うと個人物流サービス。旅行ついでに荷物を運ぶ。

- ・ **Air Closet (衣類の共有)**…一言で言うと衣服のレンタル。スタイリストが選定した服が送られてくる。そして返送すると新しい服が再度送られてくる

今、ありとあらゆる資産を共有しようという動きが加速しています。すでに、宿泊業・タクシー業がシェアリングエコノミーの影響を大きく受けていますが、その他の業界にも今後影響が広がっていくことが予想されます。

ます。

次のキーワードは、トークンエコノミー。ブロックチェーン上に記録された単なる電子データに価値が生まれ、人々の間を流通する現象をいいます。「貨幣化」「証券化」「スマートコントラクト」の3つのキーワードに分けて事例を解説します。

貨幣化

時価総額が14兆円を超えたビットコインを筆頭に、30兆円の価値が無から生まれている。なぜ無から価値が生まれるかは解明されていないが、実際に価値が生まれるという不思議な現象が発生している。誰でも発行できる仮想通貨を企業が発行し、資金調達に活用するICOと呼ばれる手法によって、数千億円を調達する企業も登場し、新しい資金調達手法として注目を集めている。

証券化

価値ある何かをブロックチェーン上に記録し、流通させるサービスが登場している。

- ・ **VALU**…企業が株式を発行するか如く、個人が「自分自身の価値」を証券化し、流通させることができるサービス。時価総額が300億円を超える個人も登場している

- ・ **Timebank**…個人が「自分の残り人生」を証券化し、10秒単位で売り出せる

サービス。時価総額が1兆円を超える個人も登場している

スマートコントラクト

ブロックチェーン上で契約を自動実行する技術のこと。「国家や企業が介在しない経済の仕組みを構築できるのでは」と様々なトピックがされている。

・**ファイルコイン**…ファイル共有サービス。パソコンの空き容量を個人や法人からかき集め、ファイルを保存したい人に提供する。Dropboxなどのクラウドファイル共有サービスをリプレイスする可能性を秘めている。

・**Numerai**…無人のヘッジファンド。データサイエンティストが投資モデルを投稿し、それを自動運用する。ヘッジファンドを不要とする可能性を秘めている。

・**Ella**…EV用充電器。充電量に応じて自動で仮想通貨が支払われるため、軒先に設置するだけで誰でも差益を儲けることができる。国家や企業がEVステーションを建設することなく、EVステーションを日本中に広げられる可能性を秘めている

今後、ブロックチェーンを使った破壊的なビジネスが生まれる可能性があります。ブロックチェーンに関する最低限の知識を身に付け、情報収集を怠らないことをお勧めしま

す。

続いて、ドローン。農薬散布や魚群探査、測量、設備点検、警備・監視などに活用され始めています。特筆すべきは、コマツのスマートコンストラクション。建設業の人手不足を解決すべく、以下の通りドローンで取得した高精度測量データをその後の工程にフル活用しています。

- ・ドローンで高精度測量
- ・その測量結果を完成図面を照合し、施工する範囲や土量を把握
- ・そこから作業内容を割り出し、工程表を自動で作成し、建機も自動で手配
- ・経験の浅いオペレーターでも高精度施工ができるセミオートモード搭載の建機
- ・これらのデータを活用し、納品図書作成をサポート

まさに、製造業で言うインダストリー4.0を建設業に適用したかのような、見事なサービスです。

他にも、下水道・ダム・橋梁などのインフラ点検にもドローンが活用され始めています。このように、人間が行っていた作業をドローンが代替する事例が増えています。自社での活用を検討されてはいかがでしょう。

次のキーワードは、パソコン操作を人間

に変わって行ってくれるソフトウェアであるRPA (Robotic Process Automation)。その理由は、業務効率化の効果が高いことが市場で証明されたからです。具体的な成果をご覧ください。

事例1…三井住友ファイナンスグループ

・200業務において、40万時間を削減
 ・3年以内に300万時間(一五〇〇人分の業務量) 以上の業務削減を目指す

事例2…大和ハウス工業

・建設業許可番号集取業務…一二〇〇万円のコスト削減効果

・勤怠チェック業務…年間60時間の業務削減
 ・工事完了証明書集取業務…一八〇〇万円以上の経費削減効果

事例3…農林中央金庫

・有価証券の時価の登録業務…業務総量の9割を自動化

事例4…ブリヂストン中国

・商品情報収集業務…年間二一八四時間の削減

・販売見込作成業務…年間720時間の削減
 ・他社価格情報の収集業務…年間400時間の削減

事例5…帝人フロンティア

・入金業務…86%の削減
 パソコンで行う単純業務が多い会社は、R

PAを導入しましょう。

最後のキーワードは、クラウドファンディング。インターネット経由で新商品を予約販売できるしくみのことを言います。このクラウドファンディングを使うと、新商品の在庫を抱えることなく売れるかどうかを判断することが出来ます。近年、このクラウドファンディングを上手に活用し、新商品開発に成功する中小企業が続出しているのです。それでは事例をご紹介します。

- ・ **CoolerCooler**…ミキサーやスピーカーが付属した高機能クーラーボックス。六万二六三二件の予約注文、一三〇〇万ドルを超える資金を事前に獲得
- ・ **iPhoneTrickCover**…ノンチャックのようにiPhoneを振り回すことができるiPhoneケース。五〇〇〇円で200個以上の予約注文を獲得
- ・ **馬肉専門「Roasthorse」**…飲食店で大成功した最初の事例。500名の会員と600万円の資金を事前に集めた。完全会員制の飲食店を流行らせた張本人。これまでにクラウドファンディングは製造業向けサービスと見られていたが、この事例によってサービス業での活用の可能性が広がった

クラウドファンディングを使うと新商品開発の手順を、

商品企画 ↓ 設計・試作 ↓ 予約販売 ↓ 量産 ↓ 販売

に変えることが出来ます。この手順の最大のポイントは「予約販売がコケたら、量産をストップできる」という点にあります。例えば、2万円のクーラーボックスを一〇〇〇個、二〇〇〇万円分売ると、という目標を立てたとします。もし、定めた期間内に二〇〇〇万円分売れなかつたら、それまでに入った予約注文がすべてキャンセル（全額返金）されるのです。これにより、売れる可能性の低い新商品を量産し、不良在庫を抱えてしまうリスクを大幅に下げることが出来ます。

試作まで投資すれば、実際に販売して売れるか売れないかを確認することが出来る。しかも売れるとわかった場合、量産前に販売代金を前金で入手できる。そんな夢のような仕組みが、クラウドファンディングなのです。新商品開発のリスクを低減するクラウドファンディングを活用し、ぜひ新商品開発にチャレンジしてみてください。

以上、短い時間ではありましたが、最新ビジネスの事例のほんの一端をご紹介いたしました。何かしら、皆様のビジネスのヒントになれば幸いです。

【講師略歴】

新谷 健司（あらや・けんじ）

静岡県湖西市生まれ、藤枝市育ち。

一九九七年、立命館大学入学に伴い、滋賀に移住。

二〇〇二年、東京都内のソフトウェア会社に入社。組み込みエンジニアとして、主に携帯電話の開発プロジェクトに従事する。

二〇〇五年、監査法人トーマツグループに入社。中小企業向けコンサルティング会社であるトーマツイノベーションの立ち上げに参画する。

トーマツイノベーションでは、経営コンサルティングとして、主に業務改善、人事制度構築、営業強化などのテーマについて、中小企業を支援。

二〇一五年、経営参謀を設立し、代表に就任。経営者向け会員制コミュニティ「参謀」を立ち上げ、新しいビジネスモデルを学ぶ場を提供している。

■参謀が企画・実施した経営者向け勉強会

<https://sanbou.club/seminars?term=past>

〈本件に関するご相談やご質問〉

■メールアドレス

kenjiaraya@sanbou.co.jp

■携帯電話

〇九〇―八五二〇―四七二六

◆広報委員会からのご案内(理事会議事録)

日時…平成三十年七月十一日(水) 十七時
場所…明治大学「紫紺館」(二F会議室)

○新入会員承認の件

高澤組織・会員増強委員長から、本日は國井泰成氏（有限責任監査法人トーマツ・包括代表、新社長就任リストより）、綿引宏行氏（株東京海上日動HRA・代表取締役社長、主推薦者・佐藤健副会長）、城川博孝氏（大和証券株・執行役員、主推薦者・相澤淳一会員）、田所俊弥氏（大和証券株・執行役員、主推薦者・佐野径会員）、高木明裕氏（株高春堂・代表取締役社長、主推薦者・若林紀生会員）、丸山雄平氏（アーキテクト・スタジオ・ジャパン株・代表取締役社長、「明治大学出身政財界人と学校法人明治大学との懇談会」出席者名簿より）の六名が推薦されており、委員会では全員の入会を承認した、という報告があった。これに関して、全員異議なく承認された。

○各委員長より報告事項

各委員会から、順次報告があった

〈総務・事業委員会 鈴木委員長〉

先般六月十一日に新メンバーで総務・事業委員会を開催し、今後の年間スケジュール等を話し合った。本日の例会以降の予定としては、九月十九日（水）にホテルグランドパレスにおいて「連合駿台会創立六十五周年記念例会」を開催する。秋の恒例事業としては、十月二十七日（土）に親睦バス旅行、十一月十五日（木）にオーブンゴルフコンペ

（於：武蔵カントリークラブ）の開催は決まっているが、さらに新しい試みとしてラグビー観戦（対帝京か慶応）も予定している。詳細は決まり次第ご連絡するので、奮ってご参加いただきたいと思う。

〈組織・会員増強委員会 高澤委員長〉

現在の会員の状況についてご報告する。本日ご承認いただいた六名を含めて今期の新入会員数は十二名、昨年度承認いただき今年度になって入会された三名と合わせて合計十五名となった。ただし六名の方が退会されているので、四月一日時点での会員数（三百五十一名）から考えると九名の純増となり、ようやく三百六十名の大台になった。委員会としては会員の皆様からのご推薦に加え、新社長リスト、さらに三月十二日に開催された「明治大学出身政財界人と学校法人明治大学との懇談会」の出席者リスト中、当会に入会されていない六十九名に対して、委員で手分けしてアプローチを進めている。

〈広報委員会 齋藤委員長〉

先の総会でご賛同いただいた、今後の連絡手段としてメールアドレスを使うという流れの中で一つご提案がある。それは携帯電話には最大七十文字を送れるショートメッセージサービス（SMS）というものがあり、世界的には当たり前前のビジネスツールとなっている。具体的には、先般入会されたメ

ディア4uの奥岡征彦社長がその業務を開発・進行されており、大変使い勝手も良いということなので、メールアドレス使用の前段階として、このSMSを使って、例会のご案内等を単純にショートに速やかにお届けしたいと考えている。次回例会案内送付の際、使用の可否に関するアンケートを同封するので、ご回答、ご協力いただきたいと思う。

〈大学支援委員会 浅井委員長〉

第一に「学術賞・学術奨励賞」は、駿台懇談会が二〇一九年一月十六日（木）に開催されることに決まった。今年度の課題としては、「大学支援のあり方検討委員会」の答申を受け、若手研究者の表彰に結び付けるべく、若手研究者の定義・位置づけと、表彰内容の具体的な検討を大学側と続けている。

第二に「寄付講座」については、春期は六月十四日、榎本知佐氏（女性、株日立製作所・エグゼクティブコミュニケーションストラテジスト）を講師に迎えて実施。百五十三名が受講し盛会だったが、プレゼンでのビデオ再生がうまく働かず、講演が予定より二十分近く早く終わってしまい、残り時間を質疑応答で凌いだ点は、今後の反省点となった。秋期寄付講座の講師は桑島壮一郎氏（GINZA S I X リテールマネジメント株・代表取締役社長）に決まり、十一月十六日（木）に開催。

第三に「フューチャースキル養成講座」は、七月半ばで全講座を終了予定、八月一日に参加企業の講師の方々、先生方、一部我々も加わって、反省会とこれからの課題について討議をする。またやはり「大学支援のあり方検討委員会」の答申の具現策として、新支援事業「ビジネスアイデアコンテスト」(仮称)を実施する。今年度は商学部企画に参画する形で、ホームカミングデーの催しの一つに組み込んでもらう形でスタートを図る予定。次年度以降は当会の独自性を打ち出し、経営学部の協力も得て目指す支援活動としたい。

第四に「留学生支援」については、交換留学生秋期修了式でのペットボトルの贈呈を昨年度で終了し、「大学支援のあり方検討委員会」の答申を踏まえて、就職キャリア支援事務室と留学生の日本企業への就職活動支援事業について打合せを開始した。今年秋に一年次生に向け具体的な説明会を実施できるよう準備を進めたい。提携部署も、国際連携部から就職キャリア支援事務室に変更した。

〈財務委員会 小山委員長〉

本日配布の会報三百四十号九ページ目の「平成三十年度収支予算」の中で、年会費収入が千五百万円となっているが、すでに七〇%以上が入金されたようで、これも皆様のお陰であると思う。さらに今年度の入会目標

三十名に対し、半数の十五名の方が入会ということなので、財務委員会としても新入会員勧誘活動をバックアップしていきたいと思っている。以上

◆新入会員ご紹介

前回までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略)



わたびき ひろゆき
編引 宏行
昭和五十四年・政経学部卒
(株)東京海上日動HRA
代表取締役社長
東京都世田谷区在住



たにら としや
田所 俊弥
昭和六十三年・経営学部卒
大和証券(株)・執行役員
東京都葛飾区在住



たかぎ あきひろ
高木 明裕
昭和五十九年・商学部卒
(株)高春堂・代表取締役社長
東京都中野区在住



しろかわ ひろたか
城川 博孝
平成二年・商学部卒
大和証券(株)・執行役員
神奈川県大和市在住



くにきだ たいせい
國井 泰成
昭和五十七年・経営学部卒
有限責任監査法人トーマツ
包括代表
東京都江東区在住

◆明大ニュース

●スリーボンド、スリーボンドファインケミカルと包括的研究連携協定を締結

明治大学は七月四日、工業用シール剤・接着剤大手の(株)スリーボンドおよびスリーボンドファインケミカル(株)と、科学技術の振興および産業と社会の発展に寄与することを目的とした包括的研究連携等に関する協定を締結した。

同日、駿河台キャンパス・大学会館で行われた調印式には、明治大学から土屋恵一朗学長と柳谷孝理学長、(株)スリーボンドの木下真代表取締役社長、スリーボンドファインケミカル(株)の土田耕作代表取締役社長らが出席。関係者が見守る中、三者が協定書に署名した。

今回の連携について木下社長は、「明治大学の若い力とスリーボンドグループのグローバルな活動が融合して素晴らしいイノベーションにつながることを期待したい」と語り、土田社長は「明治大学とスリーボンドグループが本協定により、接着された。今後

も双方にとって良い取り組みにしてきたい」と意気込みを述べた。

これを受けて土屋学長は「産学連携は明治大学にとっても重要課題。本協定をきっかけにさらなる強化をしていきたい」、続いて、柳谷理事長は「スリーポンドグループの事業に明治大学の研究力が生かされるよう進めていきたい」と、今後の発展に期待を寄せた。今回の包括的研究連携協定の主な内容は以下のとおり。

- (1) 共同の研究開発プロジェクト及び新規事業の創生に向けた産学連携に関すること
 - (2) 学術・技術交流をはじめとした研究者間の交流に関すること
 - (3) 教育、技術者育成及びインターンシップ等の人材の育成に関すること
 - (4) 地域・社会貢献に関すること
- 今後、三者は、研究を軸とした多面的な協力を通じて、新規事業や次世代を担う人材育成につなげていく。

● 校友会

二〇一八年度 定時代議員総会を開催

明治大学校友会（会長 向殿政男名誉教授）は七月二十九日、駿河台キャンパス・リパティホールで二〇一八年度の定時代議員総会を開催した。

代議員総会は校友会の会則が定める重要事

項を審議・決定する会議で、当日は代議員総数六百九人中、委任状を含め五百五十人が参加。大学からは来賓として、柳谷孝理理事長、土屋恵一郎学長をはじめ役員が出席した。

物故校友への黙とうの後、徳丸平太郎副会長の開会の辞でスタートした総会は、冒頭、向殿会長が登壇。台風が接近する中、韓国・台湾を含め全国から大勢の代議員が参集したことへの謝辞を述べた上で、前会長の残任期間を含め九年目を迎える会長任期に触れ「皆さんの母校愛のもとで仕事ができ大変幸せ。『大学に対して何ができるか』という思いで活動し、母校が発展する喜びを感じることもできる」と、校友会活動の意義を改めて強調した。

また、校友会が地方出身学生を支援する「つなげ！紫紺の『たすき』」奨学金に続いて、二〇一八年度から新たに、就学を継続するために経済的な支援が必要と認められる学生への経済型奨学金「明治大学校友会奨学金『前へ！』」を導入することや、「紫紺NET」を活用した若手校友、女性校友への参画を促す取り組みなどを紹介。「さまざまな取り組みの成果が着実に実を結ぶよう、引き続き協力を願いたい」と締めくくった。

続いて、来賓を代表して柳谷理事長、土屋学長、連合父母会の今村健会長がそれぞれ祝辞を述べるとともに、最近の大学動向や校

友会との関わりなどについてあいさつした。その後、議長団・議事録署名人らを選出して議事に入り、昨年度会務の報告と決算、二〇一八年度事業計画・予算などについて審議し、それぞれ提案どおり承認された。

議事終了後は、卒業生校友表彰が行われ、親子孫三代にわたって明大を卒業した奥村昭佳氏・哲也氏・英里子氏、また、兄弟三人で卒業した名城政一郎氏・知二朗氏・政三郎氏と篠田千恵子氏・町山光良氏・良行氏の計三組の校友をそれぞれ表彰した。このほか、九月三十日に「全国校友石川大会」を開催する石川県支部への大会旗のリレーや、石川大会実行委員会による大会PR、来年度開催の千葉大会の案内も行われた。

最後は、万歳三唱後に肩を組んでの校歌斉唱。齋藤柳光副会長が閉会の辞を述べ、総会は盛会のうちに終了した。

● 高校生がイメージを体感

二〇一八年オープンキャンパス

明治大学の各キャンパスを高校生らに開放し、大学生活の一端に触れてもらう真夏の恒例行事「オープンキャンパス」が八月、駿河台・中野の二つのキャンパスで開催された。計五日間で約四万五千人の高校生や保護者らが来場し、会場周辺は連日大盛況となった。

駿河台キャンパスでは八月二日～四日の

三日間、文系学部のプログラムを中心に実施。中野キャンパスでは国際日本学部・総合数学部に加え、理工学部の情報科学科、数学科も参加し、八月二十一日、二十二日の二日間開催した。八月八日、九日の開催を予定していた生田キャンパスは、台風接近のため両日とも中止となった。

各キャンパスとも、保護者対象・学部別・入試などの各種ガイダンスや模擬授業、明大生によるトークライブ、キャンパス見学ツアー、個別相談などを実施。学部の留学プログラムやゼミの取り組みなどについて学生が趣向を凝らして紹介する独自企画も多くの参加者でにぎわった。

参加者はプログラムを通して、明大の特色や各キャンパスの雰囲気に触れ、大学生活に期待を膨らませていた。

● 国家公務員総合職試験

明大から三十九人が合格

人事院は六月二十九日、中央省庁の幹部候補を目指す国家公務員採用総合職試験の二〇一八年度最終合格者を発表した。明治大学からは三十九人（前年度二十八人）が合格。うち女子は十人（同三人）だった。

明大の合格者の試験区分別内訳は、院卒者試験で「行政」二人（うち女子一人）、「工学」一人、「農業科学・水産」二人（同一人）、

「森林・自然環境」一人の計六人。大卒程度試験で「政治・国際」三人（同一人）、「法律」十二人（同一人）、「経済」八人（同一人）、「人間科学」一人、「工学」一人、「化学・生物・薬学」一人、「農業科学・水産」六人（同三人）、「農業農村工学」一人（同一人）の計三十三人だった。

二〇一八年度試験の申込者数は一万九千六百九人（前年度比九百八十二人減）、合格者数は千七百九十七人（同八十一人減）で、倍率は一〇・九倍（同〇・一ポイント減）。女子の合格者数は四百八十八人で、合格者に占める割合が過去最高となった。

出身学校別の合格者数内訳では、国公立大学千三百五人、私立大学四百八十六人、その他（外国の大学等）六人。合格者の出身校数は全体で百十一校だった。

● OB社長

▽石黒建設(株) 齊藤泰輔氏（一九九四年商学部卒・四十六歳）

▽川口信用金庫 木村幹雄氏（一九七七年経営学部卒・六十五歳）

▽(株)和香園 堀口大輔氏（二〇〇六年経営学部卒・三十五歳）

▽ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) 玉井孝直氏（一九九三年政経学部卒・四十七歳）

● 武器貿易条約第四回締約国会議直前シンポジウム

「世界の武器移転をめぐる理想と現実」

明治大学国際武器移転史研究インスティテュート（所長 横井勝彦商学部教授）は八月十八日、武器貿易条約（ATT）第四回締約国会議直前シンポジウム「世界の武器移転をめぐる理想と現実」を駿河台キャンパス・グローバルフロントで開催した。

これは、八月二十日～二十四日まで日本が議長国を務め、東京で開催された武器貿易条約第四回締約国会議を前に、過去と現在の武器規制の理想と現実、そして今回の会議に向けた重要課題を解説し、考察しようとするもの。国内外の研究・実務の第一線で活躍する専門家が集結した。

小川知之副学長（研究担当）のあいさつで開始したシンポジウムでは、キーノートスピーチとして軍縮会議日本政府代表部特命全権大使である高見澤將林氏が登壇。第四回締約国会議議長としての活動を振り返りながら、二〇一四年十二月に通常兵器の輸出入等の規制を定義した初の国際条約である武器貿易条約の意義や課題について紹介した。

続いてセッションでは、国際武器移転史研究インスティテュート専門研究員の榎本珠良氏、拓殖大学教授の佐藤内午氏が「武器移転規制の歴史と現状」について説明。セツ

シヨン2では、スモール・アームズ・サーベ
イ上級研究員のポール・ホルトン氏、ブラッ
ドフォード大学教授のオーウェン・グリーン
氏、ノンバイオレンス・インターナショナル
東南アジア事務局プログラム・マネージャー
のミツツイ・アウステロ氏、オスロ国際平和
研究所研究員のニコラス・マーシユ氏が、武
器貿易条約の諸課題についてそれぞれの視点
から解説した。

休憩を挟んで行われた総合討論では、セッ
シヨン1・2の登壇者六人による質疑応答が
行われた。会場からは鋭い質問が多数上が
り、活発な議論が展開されるなど、国際武器
移転史研究インスティテュートの船出にふさ
わしい密度の濃いシンポジウムとなった。

●二〇一八年度「科学研究費助成事業」 二百八十四件（5億9576万円）が採択

独立行政法人日本学術振興会から、二〇
一八年度の科学研究費助成事業（学術研究助
成基金助成金／科学研究費補助金）の交付内
定が発表された。明治大学の二〇一八年度の
採択件数は新規と継続分を合わせ二百八十四
件（前年度比十一件減）、金額は5億957
6万円（同7465万円減）となった。

科学研究費助成事業（科研費）は、全国
の大学や研究機関で行われている研究活動に
必要な資金を研究者に助成する仕組みの一つ

である。人文・社会科学から自然科学まで全
ての分野にわたり、基礎から応用までのあら
ゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基
づく研究）を段階に発展させることを目的と
する「競争的研究資金」である。複数の研究
者による審査を経て、独創的・先駆的な研究
に対する助成が行われる我が国最大規模の競
争的資金制度で、社会の困難や障害を突破す
る画期的な研究成果を多く生み出している。

科研費の中核となる研究種目は「基盤研
究」で、研究期間や研究費総額によってS・
A・B・Cの四つに区分されている。また、
若手研究者の自立を支援する研究種目として
「若手研究」を、学問の新たな領域の形成や
挑戦的な研究を支援するものとして「新学術
領域研究」や「挑戦的研究（開拓・萌芽）」
が設けられている。

●MIMS・杉原所長の錯覚作品を 神社に奉納

石上布都魂神社復興三百五十年を記念し

岡山県赤磐市に鎮座する石上布都魂神社
が寛文九（一六六九）年に藩主・池田光政公
の命により復興されてから三百五十年の節目
を迎えるにあたり、明治大学先端数理科学イ
ンスティテュート（MIMS）所長・杉原厚
吉特任教授の錯覚作品が奉納されることが決
定した。八月四日、現地で錯覚作品奉納奉告

祭が斎行された。

奉納された作品は、鏡に映すと姿が変わ
る「変身立体」の形をした賽銭箱の蓋。プロ
ンズ鑄造で制作したもので、明治大学が推進
する文部科学省私立大学研究ブランディング
事業「数理科学する明治大学」の錯視チーム
の研究成果の一つ。

石上布都魂神社は、日本書紀に「素盞鳴
尊すさのおのが八俣大蛇を退治した剣が当社に納めら
れた」と記載されるとともに延喜五（九〇
五）年に後醍醐天皇の命により編纂された延
喜式神名帳に記された「式内社」のうちの
一つで、備前国では百二十八社の中正二位に列
せられた歴史のある神社。古来、神社・仏閣
では節目の年に、絵馬や算額など同時代の著
名な作品が奉納される慣例があり、今回は現
代を反映して錯覚作品が選ばれた。

●本田技術研究所と

知的財産権実施許諾契約を締結

土屋一雄名誉教授の独自技術

明治大学はこのたび、(株)本田技術研究所
と燃焼解析技術に関する知的財産権実施許諾
契約を締結した。

この燃焼解析技術は土屋一雄名誉教授（元
理工学部機械情報工学科教授・二〇一七年三
月定年退職）の研究成果であり、土屋名誉教
授が独自に開発した技術と、(株)本田技術研究

所との共同研究により開発した技術が含まれる。

実施許諾契約の対価の一部は、土屋名誉教授の意向により理工学部開設五十周年記念教育・研究振興基金に寄付され、主に理工学部機械情報工学科、大学院理工学研究科機械工学専攻の教育・研究の振興を目的として活用される。

●理工学研究科 建築・都市学専攻

ヤンゴン・バンコクで「二都市型ASEAN国際共同ワークショップ」を実施

大学院理工学研究科建築・都市学専攻は七月三十一日から八月七日の期間、「二都市型ASEAN国際共同ワークショップ」を実施した。これは建築・都市学専攻の設計演習科目「設計スタジオC」の一部として継続的に国際的実践教育プログラムとして行っているもので、昨年度に引き続き、二〇一六年度に明治大学が採択された「大学の世界展開力強化事業」の派遣・域内交流プログラムの一部として位置づけて実施された。

八日間の二都市型ワークショップでは、前半をヤンゴン（ヤンゴン工科大学など）、後半をバンコク（本学アセアンセンター）で実施し、本学から学生十四人（派遣プログラム）と教員、連携校（六カ国七校）の全てから学生十七人（域内交流プログラム）と教員

七人が参加した。「Regeneration of the central riverfront, Yangon, Myanmar」と題した本ワークショップでは、ヤンゴン市内の川辺の中心部の地区を対象に敷地視察や行政関係者らの講演等を行い、それを受けて学生たちは六つの混成グループに分かれて、二グループずつ「水辺の環境整備」「産業地区跡地の再生」「住環境整備」という三つのテーマについて、地域の文脈の読み取り、課題や資源の抽出、将来ビジョンの導出、具体的な都市・建築デザインの提案という一連の作業に取り組んだ。

後半はバンコクに移動し、本学アセアンセンターで共同作業を続け、最終日には講評会を実施して、提案発表、講評と意見交換が活発になされた。最終講評会にはチュラロンコン大学建築学部短期留学を開始した本学建築学科の四年生七人がオブザーバーとして参加した。英語での共同作業により、学生たちは多くを学ぶとともに、連携校の学生たちとの交流を深めた八日間であった。

また、期間中は参加教員による「共創FDワークショップ」を三回開催。国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」や国際連合人間居住計画(UN HABITAT)による活動計画を前提として、アセアン主要都市の都市開発のあるべき姿や専門家の国際協働による参画の可能性について議論を深めると

ともに、各国での建築・都市学の教育の改善やアセアン域内のモビリティ向上のための連携への取り組みについても議論を行った。

●体育会監督会

「体育会のガバナンス」をテーマに研修

明治大学体育会各部の監督で組織される体育会監督会は七月一日、静岡県熱海市において研修会を開催した。この研修は、部を越えた指導者同士の情報共有・意見交換を目的として二〇一〇年から毎年開かれており、今回は「明大体育会のガバナンスについて」をテーマとして開催された。

第一部では冒頭、若林幸男副学長（スポーツ振興担当）から講演があり、体育会活動を「正課外教育」として推進していくための、ガバナンス・組織づくりについて説明があった。講演の後には、ハラスメントやコンプライアンス等についてグループディスカッションが行われ、近年発生しているスポーツ現場での事件等を受けて、熱のこもった議論が行われた。最後は各グループから発表が行われ、体育会全体として今後一層のガバナンス強化を図るための提言等がされた。

第二部では土屋恵一郎学長兼体育会会長、鈴木利大学務担当常勤理事、千田亮吉副学長（教務担当）兼教務部長が出席し、講演が行われた。土屋学長からは「一昨年度の卒業式

の学長告辞で、国際化におけるインテグリティの話をしたが、最近はスポーツの場においてもよくこの言葉を耳にする。体育会活動においても高潔さ・誠実さを追及してほしい」とのあいさつがあった。

本学体育会は、二〇一四年に「明治大学体育会憲章」を制定・施行し、体育会構成員がとるべき行動指針を示している。今後このような研修や大学役職者との意見交換等を通して、本学体育会のインテグリティを高め、大学スポーツの発展に努めていく。

●第十三回パンパシフィック水泳選手権

水泳部、松元・溝畑選手が4×100メートル

フリーリレーで銅メダル

体育会水泳部の松元克央選手（政経4）、溝畑樹蘭選手（政経2）、矢島優也選手（商4）の三選手が、競泳の第十三回パンパシフィック水泳選手権大会（八月九日～十二日、東京辰巳国際水泳場）に日本代表選手として出場。松元選手が三種目で銅メダル、溝畑選手が一種目で銅メダル、矢島選手が二種目で入賞を果たす活躍を見せた。

松元選手は、大会初日に行われた男子200メートル自由形で1分45秒92の好タイムを記録し、銅メダルを獲得。翌日には、男子4×200メートルフリーリレーに日本チームのアンカーとして出場し、日本チームの銅メダル獲

得に貢献した。

さらに十一日に行われた男子4×100メートルフリーリレーでは、日本チームの第三泳者に松元選手、アンカーに溝畑選手が登場。日本新記録となる3分12秒54のタイムで、銅メダルを獲得した。

また、バタフライの日本代表選手として出場した矢島選手は、十日の男子200メートルバタフライで六位、十一日の男子100メートルバタフライで八位に入り、出場した二種目でいずれも入賞を果たした。

●日本拳法第三十一回全国大学選抜選手権

二年ぶり選抜V

体育会拳法部は七月八日、日本拳法第三十一回全国大学選抜選手権大会（東京・大田区総合体育館）に出場し、二年ぶりの優勝を果たした。

昨年のインカレで六連覇を果たした明治大学は、初戦から順調に勝ち上がり、決勝に進出。昨年度の優勝校である中央大学と対戦し、三勝一敗一分の成績で優勝を決めた。

この大会で最優秀選手賞を受賞した松本崇雅主将（文4）を中心にチームの勢いを加速させる拳法部。十一月二十五日に行われる第六十三回全日本学生拳法選手権大会での七連覇に挑む。

●ソフトテニス部がインカレ団体日本一

第七十二回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会が八月七日、八日の二日間、岡山県の岡山市浦安総合公園テニスコートで行われ、体育会ソフトテニス部（男子）が優勝を果たした。これは、創部初の快挙となる。

各チームがダブルス三組による団体せん滅戦（勝ち抜き方式）で行われた同大会には全国から八十五大学が出場。前回準優勝の明大ソフトテニス部は、順当に勝ち上がり決勝で日本体育大学と対戦した。

先に二勝され苦しい展開となるも、そこから本倉健太郎選手（農2）・丸山海斗選手（政経3）のペアが追い上げをみせ三連勝。3-2の逆転勝利で見事、大学日本一を掴み取った。

●第五十二回全日本女子学生剣道選手権

藤崎選手が日本一

体育会剣道部の藤崎薫子選手（経営3）が七月七日、日本武道館で開催された第五十二回全日本女子学生剣道選手権大会に出場し、初優勝を果たした。同大会での優勝は同部にあって初めての快挙となった。

同大会には、五月に行われた第五十回関東女子学生剣道選手権大会の成績により、明治大学から藤崎選手と小松加奈選手（商2）

が会場。決勝戦まで勝ち上がった藤崎選手は、法政大学の佐藤みのり選手と対戦。最後は、攻撃してきた相手の隙を逃さずコテを決め、見事日本一に輝いた。

●弓道部・白川選手がインカレ個人制覇

体育会弓道部の白川史織選手（経営4）が第六十六回全日本学生弓道選手権大会（八月十三日～十五日、愛知県・日本ガイシスポーツプラザ日本ガイシホール）に出場し、女子個人で初優勝を果たした。

同大会は、射距離28mから直径36cmの星的を狙う近似的種目で、個人戦は全国各地で行われた個人戦予選通過者による決勝射撃で争われた。一射ずつ矢を放ち、失中した射手が次々に脱落していく中、白川選手は高い集中力を保ちながら的を射続け、見事優勝。女子個人制覇は、創部以来、初めての快挙となった。

◆七月例会出席者

青木孝、青木幹則、青柳勝栄、秋山隆敬、坏昭二、浅井宏、安達明正、有賀隆治、飯田和人、池田勝也、石川かおり、石川均、石橋良一、市川治彦、同ご友人、伊東正博、井上欽也、同ご友人、上西紘治、宇川一夫、潮田伊佐夫、宇敷和章、宇田川雄弘、内川雄一郎、江成健一、大石哲也、大野正美、大原幸

男、大前実之、大村託現、大屋政則、岡田茂、尾暮敏範、小山哲郎、勝俣正義、栢森靖、河原章、神林光、木村健一、清末法弘、草木頼幸、小島清治、小林一光、小山修、小山有彦、根田哲雄、根田吉雄、斉藤弘之、齋藤柳光、坂田政一、笹田学、佐藤健、志村康洋、杉浦伸二、鈴木章浩、鈴木紘一、鈴木隆志、同ご友人、鈴木紀行、関孝夫、相臺志浩、高澤徹、田口幸隆、田代恭一（代理）、田村駿、辻井知明、天童美德、同ご友人、当山明彦、徳丸平太郎、富水流孝二、中川敏

【編集後記】

今年度から広報委員会のメンバーとなり、初めて編集後記を書かせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

記録的に早い梅雨明けとともに始まったこの夏は、大きな被害を出した西日本豪雨、各地でのゲリラ豪雨、異例のコースをとり逆走していった12号をはじめとして数多く発生した台風、「命の危険がある」という枕詞がついてしまった酷暑、というように例年になく天候に関するニュースが多い季節でした。この原稿を書いている九月初めも、非常に強い勢力の台風21号が日本列島に迫ってきており、被害が出ないことを祈るばかりです。

お盆休みに帰省した信州もまた猛暑でした。いつもであれば昼間は東京と同じように暑いものの、夕方になれば涼風を感じるのですが、今年は夜もエアコンが欠かせない、暑くそして雨の少ない日が続いていました。それでも、農業に関わる知人によると、灌漑が整備された現在では「日照りに不作なし」という言葉があり、ぶどうなど果物もとても甘く育っているとのことでした。これからの食欲の秋には期待ができそうです。

洋、長堀守弘、中村豊、並木洋一、二井康夫、西澤豊、西山武夫、二宮充子、根岸伸明、長谷川進一、同ご友人、畠中君代、塙英幸、羽生健一郎、馬場範夫、原田榮、日高憲三、深代尚夫、福田和彦、藤代耕一、前川一郎、眞壁八郎、榎野泰、同ご友人、松崎優子、三浦栄治、宮下隆、向井眞一、向殿政男、村岡健、室井恵明、柳谷孝、山上雅隆、山口大介、山口政廣、山田晃久、山田憲典、山田朝彦、義江邦夫、吉田光一郎、渡邊一治、渡邊洋三

さて、二〇一八年は連合駿台会の前身である若水クラブ創立から六十五周年という年にあたり、この会報が発行される九月十九日には記念式典が行われます。本会の目的は明治大学への支援と会員相互の連携。時代とともに大学支援のあり方や連携の仕方は変わっておりますが、設立当初から諸先輩方が引き継いでこられた明治大学への強い思いは、私たちがこれからも次代に引き継いでいきたいものです。

また、時代に沿って変えていくものとして、広報委員会では例会などの連絡事項についてSMS（ショートメッセージサービス）を利用して、会務の効率化や催事の参加者増を目指すべく準備を進めております。皆様にはすでにアンケートで回答をいただいていることと思いますが、ぜひご協力をお願いいたします。

九月になり、これから過ごしやす季節がやってきます。皆様もどうぞこの夏の疲れを癒しつつ、スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋、学習の秋、と充実した季節をお過ごしください。

（弓野 理恵）